

「神の奥義 ミュステリーオン」

～神の測りに生きる～

マルコ4：14～32

■ イエス様のたとえ話

私たちは、伝えたいことをより分かりやすくするために、例をあげて話すことがあります。ですがイエス様が聖書でたとえ話をされる時のたとえとは、マーシャル(ヘブル語)「司る、支配する、統治する」に由来します。それは本来、王である君主がその民に自らの権威を伝えるために用いたものであり、語る内容を分かりやすくするためのものではありませんでした。それを聞くものがどう聞かかかすか、聞く者の姿勢であった弟子にはそれがあきらかたされたのです。『また昼と夜とをつかさどり、光とやみとを区別するようにされた。神はそれを見てよしとされた。』(創1:18)

「種」置かれた場所であなただけは何をするべき？

1. 道端(道) デレク エデンの園へのいのちの木の道

『みことばが道ばたに蒔かれるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くと、すぐサタンが来て、彼らに蒔かれたみことばを持ち去ってしまうのです。』(マル4:15) 聖書の最初の罪は、アダムとイヴが、サタンの偽りによって罪を犯した(善悪の実を食べてしまった)ことで、エデンの園を追放されたままの場面です。罪(神に従わなかったこと)によって善悪を知ってしまいました。人はこの「道」からも離されたのです。『こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東にケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。』(創3:24) 「道」から離されたというのは、神様を見る事をやめて、他のものを見てしまったこととことです。道端とは、本来見るべきものを見ないで他のものを見ようとする土台です。歩むべき道をどこにしているのでしょうか。これは救いに至る道、そうでないものを選ぶとする人の欲が描かれているたとえなのです。あなたは今どんな道を歩んでいますか。その歩んでいる道を見ることが必要です。いのちの道は非常に狭いのです。それは本当に神様が用意されている道でしょうか、それとも道を踏み外すための道(道端)でしょうか。『蒔いているとき、種が道ばたに落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。』(マル4:4) 正しい種は、いったいどのようにあなたの心に植えられているのでしょうか。

■ 2. 岩地(岩) セラ：モーセの岩

『同じように、岩地に蒔かれるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞くとすぐに喜んで受け入れるが、世の心づかいや、富の惑わし、その他のいろいろな欲望が入り込んで、みことばをふさぐので、実を結びません。』(マル4:16～17) 荒野で神がモーセに命じて水を湧き出させた岩(1度目は神に祈り岩を打ち、水を湧きださせたのに、2度目は神に祈ることをせずに命令に背き、感情的に岩を打ってしまった)『杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなた方が彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。あなたは彼らのために岩から水を出し、会衆とその家畜に飲ませよ。』(民数20:8) 『モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、たくさんの水がわき出たので、会衆もその家畜も飲んだ。』(民数20:11) 2度目の民の不満に直面したモーセは、祈ることをしないで神様の命令に背きこの岩を打って水を出しました。民が荒野で生きるための飲み水を与えるためにうたれた岩。『しかし、私が与える水は飲むものではなく、決して渴くことがありません。私が与える水は、その人の内側となり、永遠のいのちへの水がわき出します。』(ヨハ4:14) 岩とはキリスト様でした。ここで民や弟子たちの行動を現しています。ここでの、種が岩地に落ちると言うのは、キリスト様への信仰が芽生え従おうとしますが、つまずき裏切り、そして離れてしまう姿。それはキリストの十字架を描いているのです。『また別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。しかし日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。』(マルコ4:5～6)

■ 3. いばら(茨) コーツァ

『もう一つの、いばらの中に種を蒔かれるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いてはいるが、世の心づかいや、富の惑わし、その他のいろいろな欲望が入り込んで、みことばをふさぐので、実を結びません。』(マル4:18～19) 本来、いばらは人の罪の結果生まれた植物として、大地の呪いを指しています。ですから罪が生まれるまでは存在しませんでした。『また、人に仰せられた。『あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じて置いた木から食べたので、土地は、あなたのゆえに呪われてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならぬ。土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならぬ。』(創世3:17～18) 『茨の中』=罪の結果。苦痛と嘆きに満ちた今のこの世界であり、やがて滅びゆく今のこの時代を指しているのです。「良い地」とはその反対で、神の国の完結といえます。

■ 4. 良い地

『良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いて受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちです。』(マル4:20) 地上に完成される「神の国」で神様はアブラハムを選びだし、彼のゼラ：「種(御言葉)、子孫」を地のちりのように増やす(創世13:16)と約束されました。種(御言葉：ロゴス)と子孫(人)という概念によって、この「三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たち」とは良い地であることが分かるのです。『すると仰せられた。『行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見ず、自分の耳で聞かず、自分の心で悟らず、立ち返って癒されることのないように。』私が、「主よ、いつまでですか」と言うと、主は仰せられた。『町々は荒れ果てて、住む者がなく、家々も人がいなくなり、土地も滅んで荒れ果てて、主が人を遠くに移し、国の中に捨てられた所が増えるまで。そこにはなお、十分の一が残るが、それもまた、焼き払われる。テレピンの木や樫の木が切り倒される時のように。しかし、その中に切り株がある。聖なるすえこそ。その切り株。』(イザ6:9～13)

■ 創世記から黙示録までの、壮大な神様の永遠の計画！

道端	岩地	茨	良い地
いのちの木への道 エデンの園	生ける水が湧き上がる 岩(命じるのではなく 打ってしまう)	罪ののろい	イスラエルとそれに繋 がる異邦人の繁栄
救いに至る道・そうで はない道を選ぶとする 欲	キリストへの信仰が芽 生え従おうとするが つまずき裏切りそして離 れていく姿 イエスの十字架	苦痛と嘆きに満ちた今 のこの世界・やがて滅 びゆく今のこの時代	三十倍、六十倍、百倍 の実を結ぶ人たち
サタンによる人の罪	イエスと十字架	滅びゆく今の世	神の国の成就

『また言われた。『あかりを持ってくるのは、柁の下や寝台の下に置くためでしょうか。食台の上の置くためではありませんか。』(マル4:21) あなたの人生において、今しか見ず、道端から誘惑され、水に目が向き、本来見るべきものを見ないで、神様の壮大な計画が見えなくなっているのなら、もう一度あかりをとしてみる必要があるのではないのでしょうか。御心を行うために、自分の測り縄で測ることをやめて、聞き従います。それは、してはいけないことをしないということなのです。このたとえから、今回のメッセージでは私たちがこの地に種が蒔かれたかではなく、この種蒔きのたとえには隠された奥義があり、この背景には創世記から黙示録までの壮大なストーリーが隠されていることを今回受け取って欲しいのです。同時にそれは私たちの人生そのものであり、一人一人のための神様の壮大な計画が用意されていることも示唆されているのです。全てを計画され、全てをご存じである神様の計画は変わりません。神の国の成就です。そうであるからこそ『聞く耳のある者は聞きなさい。』また彼らに言われた。『聞いていることによく注意しなさい。あなたがたは、人に量ってあげるその量りで、自分にも量り与えられ、さらにその上に増し加えられます。持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っているものまでも取り上げられてしまいます。』(マル4:23～25) とあるのです。『持たない人』とはどういう人でしょうか。神様からの「種」を持っていないということです。種をもっていれば、あなたが何をしてもいかなる状況でもこの種の芽はでる。私たちは選ぶか選ばないか。聴いて信じてどんな小さい種でも植えるなら、あなたは実を刈り取ることができるのです。愚かな人とは愚かなままにいる人の事であり、かしい人とは愚かな状態から聴こうとする人の事です。誰に聴いているのか？誰に聴くのか？もう一度自分を振りかえると共に、祈りの中で聖書の奥義を覚えて下さいと祈り求めましょう。

さいごに

私たちに与えられる種は、永遠の計画の種です。神の国の完成の種ですから一代で終わるものではありません。だからこそ、信じて蒔き続けるのです。成長させて下さるのは神であり、神の測りに聴くことができれば私たちは愛によって導かれます。そして必要な備えをすることが出来ます。しかし自分の為に備えるものではありません。私達は道端であり岩地であり茨です。そんな私たちに神が創世記から用意して下さっている計画は良い地(神の国の成就)です。私たちは何をやるか？「今、聴くものになる」ことです。神様からの愛の励ましのメッセージであるこの奥義を受けとり、聴くものとなりましょう。

(要約者:牧三貴子)

(2020年3月8日)